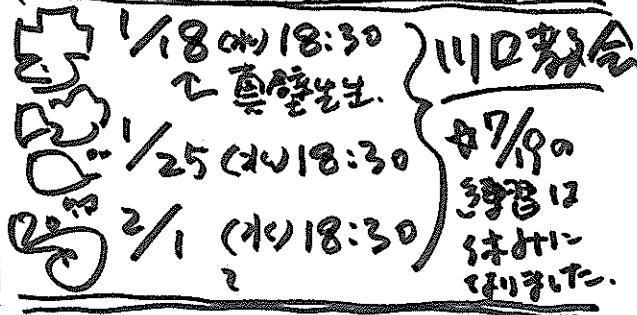


Freude

vol. 16・9 2023.1.11.wed



募集期間は1月いっぱい。年末に興味を示していた方に連絡しようね！

今年はインフルエンザが大流行とのこと、みんな気を付けて、元気に練習いたしましょう！

団員募集は1月末まで。ぜひぜひ、お友達に「まずは、覗いてみない？」とお誘いくださいね！

1/4現在	S	A	T	B	計	備考
継続	16	13	7	4	40	ただしアルト1長めのお休み
新入団&復帰	5	3	2	1	11	年末見学者テナー小岩井さん入団です！
見学	2	1		1	4	
合計	21	16	9	5	51	登録者合計。見学含ます。

♪お誘いのタネを蒔こう！チラシを置こう、貼ろう、配ろう♪

ご自身が演奏会に行ったときは、ぜひ、帰りに配ってください。そのほか、行きつけの美容院や喫茶店、また、駅によっては、貼らせてもらえるところもあるかもです。（カラー版、拡大版もありますので、団長に言ってくださいね！）

♪♪
♪「サンクタ・マリア・マーテル・デイ」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」

それぞれの作曲時期の違いなど、亀井先生がよく話してくださいますよね。基礎知識をおさらいしておきましょう。

「サンクタ・マリア・マーテル・デイ」 KV273

1777年秋、21歳のモーツアルトが母アンナ・マリアとパリへ旅立つ頃につくられました。モーツアルトの就活旅行、ザルツブルク大司教に休暇と旅行の許しを求め、やっと許可されました。出発時、父レオポルドは病氣療養中、アンナ・マリアは夫を置いて旅立つのは不安だったでしょうし、モーツアルトも心配しながらの出発でしょう。「サンクタ・マリア・マーテル・デイ」はそんな旅の無事を祈願したもの、と言われています。しかし1年後、アンナ・マリアはパリで客死することになります。

「アヴェ・ヴェルム・コルプス」 KV618

1791年6月頃（亡くなる半年前）モーツアルト35歳、妻コンスタンツエの療養を世話をした合唱指揮者アントン・シュトルのためにつくられました。この「モーツアルトの35歳の年」は、オペラ「魔笛」「皇帝ティートの慈悲」の作曲と上演、そしてもちろん「レクイエム」の作曲など、多忙を極めます。しかし、ザルツブルクを飛び出し、ウィーン拠点のフリーランスとなってからのモーツアルトの経済状態は決して楽ではなく、30歳ごろからは悪化の一途で1791年は窮乏を極めました。健康状態も死の前年くらいからだいぶ悪かったようです。そんな中で「アヴェ・ヴェルム・コルプス」は作曲されました。

※カルル・ド・ニ (カール・デ・ニス Carl de Nys 1917- 1996。フランス司祭および音楽学者。モーツアルトの生涯を検索すると、必ず出てくる人) は次のように記述しているそうです。(ネットから抜粋)

『サンクタ・マリア・マーテル・デイ』は、深遠であると同時に単純な美しさに、しばし息を呑む思いがする。もしこの聖母マリアの昇階唱が、『アヴェ・ヴェルム・コルプス』のもっているあの絶対的な高みに到達していないとすれば、それは1777年の秋のモーツアルトは21歳という若さの輝きのなかで、自分のために祈願をしたのに対し、1791年6月に書かれた聖体のためのモテ『アヴェ・ヴェルム・コルプス』は、永遠の安息が身近に迫っているなかで、キリストの受難と聖変化(パンとブドウ酒がキリストの血と肉体という実体に変化すること)を黙想したものだという、それだけの違いのためであろう。

